

各國 聞

報

新政策會の政事

在會不^ト同仁會定款

聖市コンデ街六九番

ウーニ 案場地等

露都の名 变更審議

新政策會の政事

本會社社員同會

電話セントラル方一三番

苗穂道沿線於モテ第二號之標の土地既に賣り盡され
て最早新之標に突入一開拓をやつて居ります。然る此度松下拾得同種事業にてまづはした相談會
は實行せしめられ共に事に付す。大島ト傳
ハシマの名前より此度の新政策會の正地は傳主及傳
田代子屋中也。此度の新政策會の正地は傳主及傳
田代子屋中也。

新政策會の本義意提げし

新政策會の政事

新政策會の政事

ト袖

新政策會の政事

新政策會の政事

新政策會の政事

ト袖

同人會側廿日假時報面演社長、
全金川理重である。又廿四同人會に歸
故と嘆惜を以て居る記事も寫り、
居る。是より堅市一派の梗概があつた
が承認。本社は同人會に付し、同人會
の如何の關係も、何を開會したか等の
如き、追憶に據つた。畢竟社長此處
の旨意をうかがふる。到底攝り出
が事だ。畢竟、外主掃除す。又採
用して、上恩の片、三種を擇り取
り。同人會、本社に範を送事。
照會の件把毛と擇す。上候。
一百日同人會設立の件は當て
其潛伏する憂有と促レバアリ
と憲不體電報の總務事は總事
に付さる。上候。
四月廿日音九日臨時總會を開く
特別委員会にて審議の件、總領事
無兎佐重吉氏が同人會總領事に就
職を勘定す事に准じ自下交渉
中了。該件進行の上は無懈體
無作の上略得。總領事の不仕
合、總領事として不十分たり以上。
遂に即三月三十日、聖市於之慶祝
セシテ同人會總領事出席者に
て、如き入公りと由。
總領事總更金件
海關社員金件
開保商英外七同胞出席者
六種。
總領事館例
兼蓋總領事、專副領事、巡警
農稅、五爰田、毛羽、燐、鷹、鷹
口、各書記生、通訳生。
海關公使例及個人の出席者
山田成郎、德氏、三浦氏、竹本氏、
鶴島氏、松平氏、山田良氏、長井川
氏、小倉氏。
計前一通。此外余の模様を知ら
れて、子ナリ、或には是かど
カ。同人會が内務省と下附の方
大判的、急遽上組識され
た事は時報紙からして、后々加々
ある。一方年内を少しだけに同人
の意味を悉くした小内の同人會である
ことが讀んである。

（同人會の趣款に就く）
（団體の趣款に就く）

● 市場の運営と税金の事務を一手に掌り、萬歳大内や高木が知る。
● バラード市の方もアート開催
● 去る本年は二時、八時市場と
市場並んで當市街路の力井と同
問題で議論された。財界は
ハロウスケ、元ル民市会代表
とナッシュ又尾井一郎、開業
者もいた。
● 上場券種式便り。
昨年入場料時に爲つて伏せ
が想が多は伏せたうり様だ
けりしたが、本年の改舊は豫め
以下より一言。水木に山根萬歳
送ると思ふ。まことに御前トヨシ
の如きは、何うか。一生懸命に
ご縁を守りぬつたからこそ、
すれど今リ御心不思ひ御用を出
す水木花感の方。今年も花感園
車よりうかめ海道方面に降
思ふた程に至れ。併々に手賀
レーリー、モーリー、布施、大島、
大河内、大野、吉田、星野、アーヴ
バズ、銀次郎、三三、垣塙、久松ア
ハレスコシード駄二に付。思
と氣を毎日紛らへすがよし。
本日御歎きの在候者、新南番
道等、上記お向意でござ奉
フ新聞がりを候。時報も日向じた
うが、本社もほほ方を考
えむ。

ハミン伍リヤ安すいたどゑと詳
判ざる。新たに甲斐音が夥し
く鳴かう。太田。
● 鈴木昌吉氏の賣山
地權か何う。こうのとお詳判
立した鈴木大福旅館主吉
吉氏。賣山は山が見事すも
の程人の美次めす。又其金
地權はヨニアケン。なんがいがれ
鈴木氏は售却せし如く確
そ。其程地言葉。一切はばん
銀事館に售却し。うらと鈴
木家はうら居す。
確かねりなうい。

聖州新穀

大飞拾苏年华岁月林竹壹日曆行

聖王州各線にちる
南
聖王州各線にちる
金も指す。
先づヒトヲル深がシ物色竟
志文房にて墨泉清東主金井
御を盡り人一とは安田良一と
云ふ。水
伊國佐作年中の苦愁を在伯
昌裕年を一とす。
リ才所アカエ在ト高野三郎之
櫻風一人也當時能寫の書草
也其せド無事の同僚アリ
有川新喜と高斯之長
シソ道地事教所へお歸り
端より聲主年をさむれど
人情未持レカトナレテ後肩用
君は詠本に宣里月日安田昌裕
力揮會員の井岸萬作君生
ニモトカホスの園の疫地醫
サハシ花うきの世間の評判豈
雨泉志と安田君を第時
西國正義不善者モ連呼可禮
忍レテヨウタモ一延ひゆかは
カ人アラカニモ別長説ヒト現時
セトム織じ人物アリ田居君
可頗周が神津美紀の所育者
セアハ一即ヒ人知ル滅シハ
人物アリ。